

オープン市場短信 (2013年9月)

2013.9.06

◆ 8月のCP市場動向

8月のCP（短期社債）月末残高は、15兆1462億円と前月比5387億円の減少。8月末残としては過去最低の水準であり、5ヶ月連続で前年同月比マイナスを記録した。全ての業態で残高が減少する動きとなり、一般事業法人▲8.30%、金融機関発行分▲1.00%、その他金融▲1.88%、ABCP▲2.02%という結果となった。

今年度に入ってから、CP発行の伸び悩みが続いている。社債発行により手元資金が厚くなっていることや銀行等の貸し出し攻勢が強いこと等から、CPによる資金調達ニーズが後退していることが指摘されている。

発行レートは、ディーラー中心に購入意欲旺盛で、下値を試す動きとなった。最上位銘柄での0.100%割れは常態化し、a-1格銘柄でも0.100%割れが散見された。しかし、発行頻度の高い銘柄や一回の調達額の大きい銘柄では、依然として0.100%台の出合いとなっている。

【新発3M物の発行レート】

最上位銘柄（a-1+格）0.0955%～0.103% 一般事業法人（a-1格）0.097%～0.108%
その他金融銘柄（a-1格）0.985%～0.125%。

【業態別残高内訳】

（単位：億円）

業態	8月末残高	7月末残高	増減
一般事法	46,116	49,746	▲ 3,630
その他金融	56,955	58,047	▲ 1,092
金融機関	30,819	31,121	▲ 302
（政府系金融	340	330	10）
（銀行等	13,619	13,422	197）
（証券	16,860	17,369	▲ 509）
ABCP	17,572	17,935	▲ 363
計	151,462	156,849	▲ 5,387

（注：買入消却分含む）

【格付け別の発行レート】

8月のCPLレートレンジ

(単位 %)

格 付	1ヶ月	2ヵ月	3ヵ月
a-1+(一般事法)	0.0950% ~ 0.1000%	0.0945% ~ 0.0980%	0.0955% ~ 0.1030%
a-1 (一般事法)	0.0970% ~ 0.1050%	0.0960% ~ 0.1030%	0.0970% ~ 0.1080%
a-1+(リース銘柄)	0.0940% ~ 0.0990%	0.0900% ~ 0.0970%	0.0970% ~ ——
a-1 (リース銘柄)	0.0980% ~ 0.1020%	0.0960% ~ 0.1058%	0.0985% ~ 0.1250%
a-2	0.0990% ~ ケ 0.20%	0.1200% ~ ケ 0.25%	0.1250% ~ ケ 0.30%

《CPオペ》

CP買入オペは、8月は5日・20日・26日と3回実行された。5日と20日のオペではそれぞれ応札は多かったが、発行レートの低下が影響したため、足切り・平均落札レートは低下する動きとなった。26日のオペでは、20日のオペとの期間が短く発行も少なかったことから応札玉が減少し、足切り・平均落札レートは過去最低を記録した。

[8月末のオペ残高・・・2兆1101億円]

日銀 CP等買入れオペ実績

(単位:億円)

実施日	実行日	オファー金額	応札額	落札額	按分・全取	平均落札	按分比率
8月5日	8月9日	4,000	7,550	3,983	0.097%	0.099%	3.8%
8月20日	8月23日	4,000	8,182	3,902	0.097%	0.099%	48.9%
8月26日	8月29日	4,000	4,288	3,683	0.091%	0.096%	24.3%

《ABC P》

ABC Pは、前月比 363 億円減少し、1 兆 7572 億円となった。前年同月比では、117 億円の微増であった。ABC Pが、前年同月比を上回ったのは 2012 年 6 月以来である。

《短期社債登録状況》

証券保管振替機構によると、発行登録企業数は新規登録がゼロ、登録抹消がジェイバード・ファンディングの1社があり、491社となった。8月末時点における通算の発行企業数は変わらず、527社となっている。

《CP現先市場》

現先 (S/N) レートは、8月中も落ち着いて推移 (0.097%~0.103%) した。

◆ 9月のCP市場動向

9月中のCP償還額は約3兆7500億円で、前年同月の償還額 (約3兆9500億円) を下回っている (除く、金融機関発行CP・ABC P)。

一般事法は、例年同様中間決算期末を控えて発行を抑え、有利子負債圧縮を図ること

となろう。金融機関（特に、証券会社の動きが顕著である）についても、大幅な資金余剰が影響して新規の発行を行わない等、資金調達ニーズが後退している。その為、大幅な発行減少が予想され、期末発行残高は14兆円前後まで落ち込み、今月も前年同月比マイナスとなる可能性が高い。

発行レートは、発行が減少する中ディーラーや投資家の購入ニーズが引き続き旺盛な為、レート低下基調は変わらないだろう。

一般銘柄の3M物では0.090%台後半～0.100%台前半の出会い。その他金融・リース銘柄（a-1格銘柄）の3M物は、0.100%近辺～0.110%台後半での出会いをそれぞれ予想する。

《CPオペ》

今月は、3日（実施済）・13日・20日と計3回の入札が何れもオファー額4000億円にて実施される予定。3日のオペ結果は、応札玉の増加から足切りレートは上昇したものの、平均落札レートは過去最低水準となった。次回以降については、ディーラーの期末越えの資金調達ニーズと応札玉の多寡に拠るが、発行レートを勘案すると弱含み横這い推移となるのではないかと。月末オペ残高は、2兆円前後を予想する。

《CP現先市場》

S/N物のレポレートは0.07%～0.09%近辺の出会いで月中推移すると思われ、インターバンクレートは、0.065%～0.075%近辺での推移を予想。

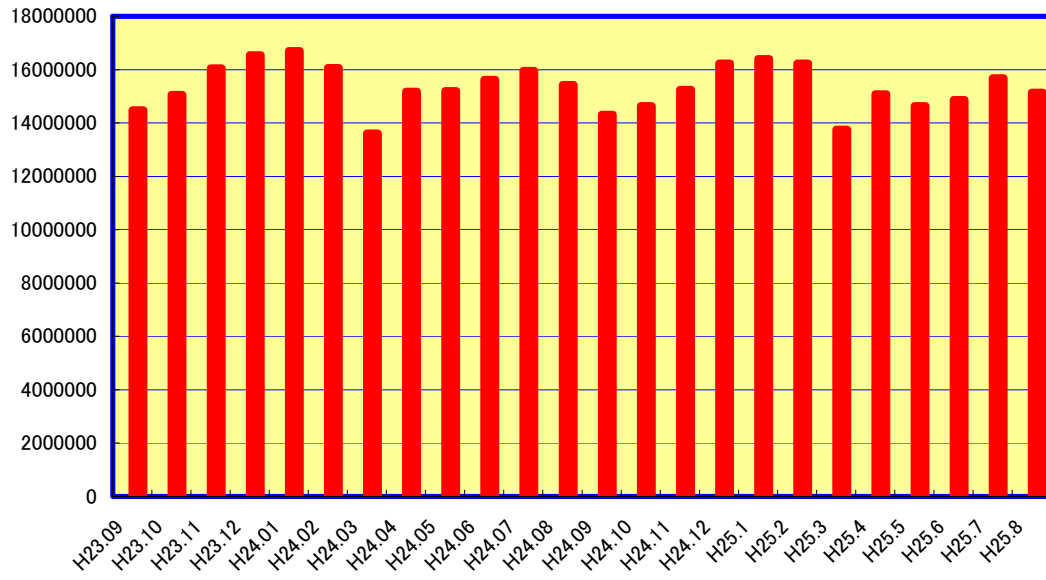
CP現先レートは、0.095%～0.100%近辺での出会いを予想する。

参考資料

短期社債月末残高（23年9月～25年8月）

発行登録企業：491社（発行実績あり527社）

（過去2年間の残高を表示）



8月末発行残高ベスト20

8月末発行残高上位20社

(単位:百万円)

	発行企業名	8月末残高	7月末残高
1	三井住友ファイナンス&リース	755,300	764,300
2	三菱UFJリース	750,800	781,100
3	東京センチュリーリース	606,000	606,800
4	コンチエルト・レシーバブルズ・コーポレーション	603,760	563,620
5	みずほフィナンシャルグループ	500,000	500,000
6	三井住友信託銀行	480,000	489,000
7	三菱UFJモルガンスタンレー証券	478,600	507,800
8	JXホールディングス	461,000	450,000
9	新日鐵住金	374,000	318,000
10	大和証券	360,380	363,580
11	みずほ証券	330,800	317,600
12	JA三井リース	330,000	332,000
13	興銀リース	329,400	330,700
14	エイペックス・ファンディング	295,570	338,120
15	アルカディア・ファンディング	295,230	303,570
16	野村証券	254,000	286,000
17	東芝	243,000	269,000
18	芙蓉総合リース	237,700	239,700
19	ホンダファイナンス	200,000	193,000
20	日立キャピタル	192,000	217,000

参考出所 (株)証券保管振替機構